「佐賀大学医学部附属病院での臨床研修を終えて」

タイヘイ薬局　メディカルモールおぎ店

　今村　真利

1. 背景と目的

佐賀県薬剤師会では「佐賀県薬剤師会薬剤師臨床研修制度」を創設され、地域医療を担う薬剤師を育成するために、佐賀大学医学部附属病院において実施する臨床研修へ会員薬剤師を派遣し、地域医療における効果的な薬物治療の知識・技術を習得させることにより、地域医療体制の充実を図られている。

今回はその臨床研修を終えての報告をする。

1. 方法

各病棟の中から、主に関心の高かった血液内科病棟を選び、その中でも「急性骨髄性白血病再発」の患者の症例を検証した。肺炎の治療で受診した際に急性骨髄性白血病の診断となり、寛解導入療法、再寛解導入療法、薬剤性心筋障害、臍帯血移植、再発となった患者の症例をまとめ、薬剤選択や治療方法、佐賀大学医学部附属病院の現状について調べた。

1. 考察

急性骨髄性白血病の寛解導入にはアントラサイクリン系薬剤が用いられることが多いが、副作用の心筋障害により総投与量に上限がある。移植にも骨髄移植や臍帯血移植があるが、本人や病院、ドナー側にも様々な事情があり、ガイドラインや患者の希望通りには治療が進められないことが分かった。また、移植を行っても再発の可能性があり、高齢になると移植自体を行うことができない。薬局薬剤師もピカピカリンク等を活用し、患者の状況をより理解した上で対応していくべきだと感じた。

1. まとめ

薬剤師臨床研修制度に参加し、病院薬剤師業務を学ぶことができた。特に病院特有の注射や栄養、各病棟との連携、抗がん剤、レジメンについて学ぶことが多かった。大学病院では抗がん剤治療は入院よりも外来での施行が多く、薬局薬剤師も、抗がん剤治療やレジメンについてももっと学び、外来での抗がん剤治療のフォローにつなげていかなければならないと実感した。また、今後は在宅医療の推進により、自宅での緩和ケアや看取りの患者も増えてくることが予想される。この臨床研修で、病状に合わせた適切な対応や、チーム医療、薬学的管理を必要とする薬物治療の知識・技術を体験、習得することができた。今回の経験を活かし,地域のかかりつけ薬局・薬剤師として、患者の入退院も含めた継続的な治療、病院との連携、そして看取りまで、これまで以上に地域に根差した薬剤師を目指していきたい。

キーワード：薬剤師臨床研修制度、急性骨髄性白血病、移植